

第2章 食品製造業の生産動向

利用者のために

食品製造業 総合

- 1 畜産食料品
- 2 水産食料品
- 3 農産食料品
- 4 製穀粉・同加工品
- 5 食用油・同加工品
- 6 砂糖
- 7 調味料
- 8 飲料
- 9 菓子
- 10 調理食品
- 11 酒類

利用者のために

1 食品製造業の生産、出荷、在庫調査の対象

(1) 調査の対象

食品製造業の生産、出荷、在庫調査は、標本調査及び既存統計資料の収集から構成されている。標本調査は、食品需給研究センターがメール等の調査により実施したものである。既存統計資料は、農林水産省や関係団体等で実施された調査統計資料を収集し、活用したものである。

調査対象部門と品目は下表のとおりである。

	本調査の対象品目 (標本調査)	既存統計資料の収集品目 (農林水産省、業界団体、国税庁等)
1 畜産食料品	はっ酵乳・乳酸菌飲料	食肉加工品、牛乳・乳製品、食肉缶・びん詰
2 水産食料品	水産練製品	水産缶・びん詰
3 農産食料品	野菜・果実漬物 乾燥野菜	農産缶・びん詰、トマト加工品
4 製穀粉・同加工品	製粉・穀粉、パン類、めん類、マカロニ類	プレミックス、パン粉、でん粉
5 食用油・同加工品		植物油脂・加工油脂
6 砂糖		精製糖
7 調味料	味噌	しょうゆ、マヨネーズ、ドレッシング類
8 飲料	コーヒー、紅茶、緑茶、ウーロン茶、麦茶、その他の茶系飲料	炭酸飲料、果実飲料、トマト飲料
9 菓子	ビスケット、米菓	
10 調理食品	加工米飯、包装もち	調理缶・びん詰、レトルト食品
11 酒類		清酒、合成清酒、みりん、焼酎、ビール 果実酒、リキュール、雑酒
12 その他の食品		植物油粕

(2) 標本調査の概要

調査対象	調査対象企業数 608 社
調査時期	平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月
調査方法	郵送・メール・電話による聞き取り
回答企業数	289 社（回答率約 47.5 %）

2 食品製造業の生産指数、出荷指数、在庫指数の作成基準

(1) 食品製造業生産指数

食品製造業生産指数のウェイトについては、平成 22 年工業統計表の食料品製造業の出荷額を基準として作成している。

ウェイトは、各部門別、業種別、品目別のウェイトを算出するが、調査資料のない品目のウェイトは、原則として、調査品目にふくらしを行い、部門及び全体の推計を行う（ふくらしウェイト方式）。

指数算出時点においてデータがすべて揃わない場合は、前年と同水準であるとする仮定のもと、該当する欠損値に前年の数値を用いて指数を算出している。

(2) 食品製造業出荷指数

食品製造業出荷指数のウェイトについては、平成 22 年工業統計表の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

(3) 食品製造業在庫指数

食品製造業在庫指数のウェイトについては、平成 22 年工業統計表の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

3 指数の計算方法

指数の計算方法は、次のとおり。

(1) 指数算式

指数計算は対象品目別に基準数量で比較月の生産量を除し、品目指数を計算し、次にこれらの品目指数を業種別、部門別、さらに総合につき品目ウェイトで加重平均する。

基準数量と品目ウェイトはあらかじめ算定し、固定しておくので、変化するのは月々の生産量のみである（ラスパイレス算式）。この指数算式は次のごとくである。

$$Q_t = \frac{\sum_{i=1}^n \frac{q_{ti}}{q_{0i}} w_{0i}}{\sum_{i=1}^n w_{0i}} \times 100.0$$

q : 生産量
 w : 生産額ウェイト
 i : 採用品目を示す添字
 0 : 基準時を示す添字
 t : 比較時を示す添字

生産指数の基準年は平成 22 年であり、基準数量は対象品目ごとの 22 年月平均生産数量である。指数値は 22 年月平均の比例数である。出荷指数と在庫指数についても同様の指数算式で行う。

(2) 指数改定

指数は、基準時から遠ざかるに従い新製品の登場、製品の品質変化、相対価格の変化等によって採用品目の代表性、ウェイト構成の妥当性が不安定になる。このため 5 年毎に基準時を移行し、改めて選定された採用品目と再計算されたウェイトによる改定基準を作成する必要がある。

（３）用語の解説

① 暫定値：各総合指数を推計する際、現在の使用データが速報値であり、今後確定値に変更されるデータについては、暫定値としている。

② 寄与度：他の内訳が変化しないとした場合に特定の内訳の変化が全体をどの程度の割合で変化させたかを表している。

$$\text{対前年増減寄与度} = \frac{\text{各部門指数（当年指数－前年指数）} \times \text{ウェイト}}{\text{（総合指数（前年指数）} \times \text{ウェイト）} \times 100.0}$$

③ 本報告書では上昇、低下、増加、減少の表現区分は次のようにしている。

前年並み	：	± 1 %未満
わずか	：	± 1 ～ 3 %未満
やや	：	± 3 ～ 6 %未満
かなりの程度	：	± 6 ～ 11 %未満
かなり大きく	：	± 11 ～ 16 %未満
大幅	：	± 16 %以上

食品製造業 総合

(1) 生産指数

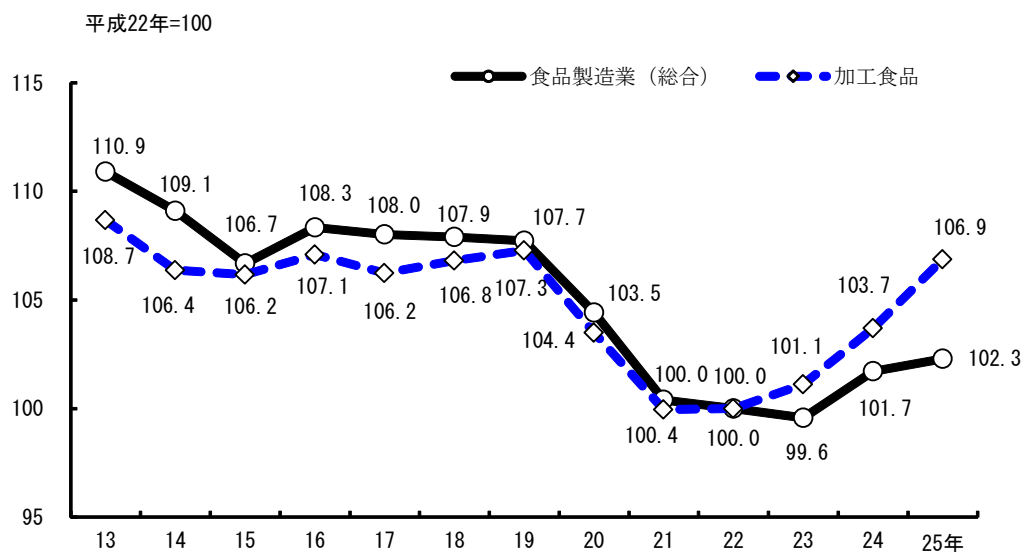
平成25年の食品製造業（総合）の生産指数は102.3で、対前年比0.6%と前年並み

平成25年の食品製造業（総合）の生産指数（平成22年=100、暫定値）は102.3で、対前年比0.6%と前年並みとなった。また、飲料、酒類を除いた加工食品の生産指数（平成22年=100、暫定値）は106.9で、対前年比3.1%とやや上昇した。

平成23年の東日本大震災以降は、上昇傾向で推移している。特に調理食品、製穀粉・同加工品の寄与が大きく、また畜産食料品、水産食料品、食用油・同加工品、調味料がプラスに寄与している。一方、菓子及び飲料はマイナスに寄与している。

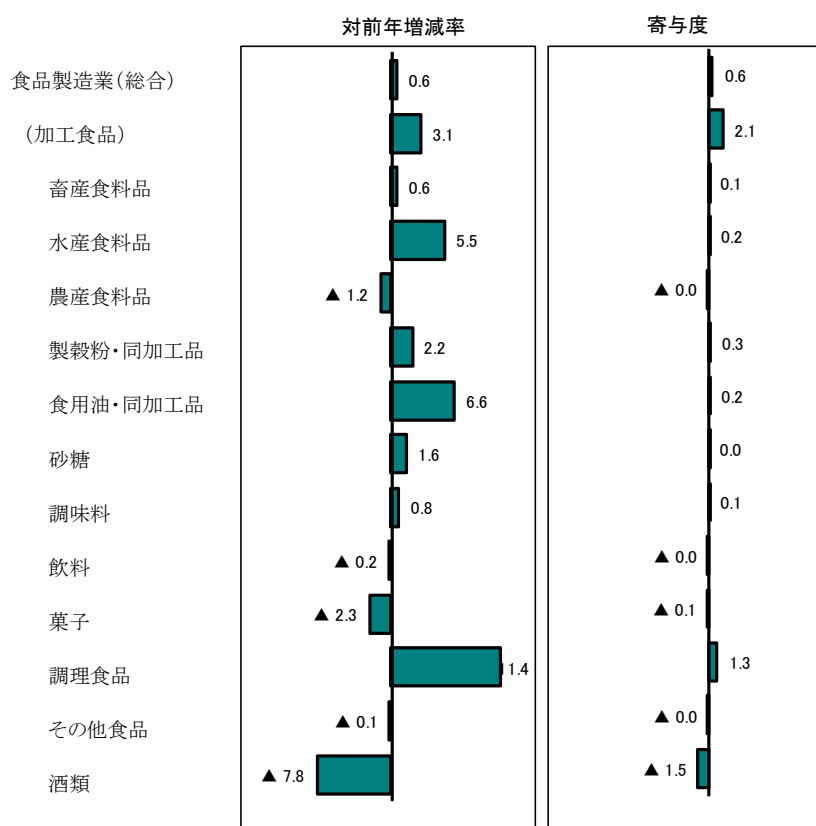
分野別にみると、調理食品がかなり大きく上昇し、食用油・同加工品がかなりの程度上昇し、水産食料品がやや上昇し、製穀粉・同加工品及び砂糖がわずかに上昇した。一方、酒類がかなりの程度低下し、農産食料品及び菓子がわずかに低下した。また、畜産食料品、調味料、飲料及びその他食品は前年並みとなった。

図2-1 食品製造業生産指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図2-2 食品製造業の生産指数の対前年増減率、寄与度



注：(加工食品) は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

表 2-1 食品製造業の生産指数の推移

	ウェイト (22年)	指数（22年＝100）				対前年増減率（％）				寄与度 25/24年
		22年	23年	24年	25年	22年	23年	24年	25年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	99.6	101.7	102.3	▲ 0.4	▲ 0.4	2.1	0.6	0.6
(加工食品)	6,755.5	100.0	101.1	103.7	106.9	0.0	1.1	2.6	3.1	2.1
畜産食料品	1,581.5	100.0	100.9	103.0	103.6	▲ 0.5	0.9	2.0	0.6	0.1
水産食料品	321.0	100.0	92.0	97.3	102.7	3.4	▲ 8.0	5.7	5.5	0.2
農産食料品	451.3	100.0	89.8	87.0	86.0	▲ 1.4	▲ 10.2	▲ 3.2	▲ 1.2	▲ 0.0
製穀粉・同加工品	1,577.6	100.0	103.5	101.6	103.8	0.9	3.5	▲ 1.9	2.2	0.3
食用油・同加工品	360.2	100.0	97.4	104.3	111.1	▲ 4.0	▲ 2.6	7.0	6.6	0.2
砂糖	19.5	100.0	98.9	97.8	99.3	1.5	▲ 1.1	▲ 1.1	1.6	0.0
調味料	865.0	100.0	99.5	102.1	102.9	▲ 1.3	▲ 0.5	2.7	0.8	0.1
飲料	1,214.6	100.0	94.5	98.5	98.3	▲ 3.7	▲ 5.5	4.3	▲ 0.2	▲ 0.0
菓子	490.4	100.0	101.2	99.8	97.5	0.7	1.2	▲ 1.3	▲ 2.3	▲ 0.1
調理食品	984.0	100.0	109.0	122.2	136.1	1.3	9.0	12.2	11.4	1.3
その他食品	105.0	100.0	97.0	94.4	94.3	2.0	▲ 3.0	▲ 2.6	▲ 0.1	▲ 0.0
酒類	2,029.9	100.0	97.5	97.0	89.5	0.1	▲ 2.5	▲ 0.5	▲ 7.8	▲ 1.5

注：(加工食品) は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

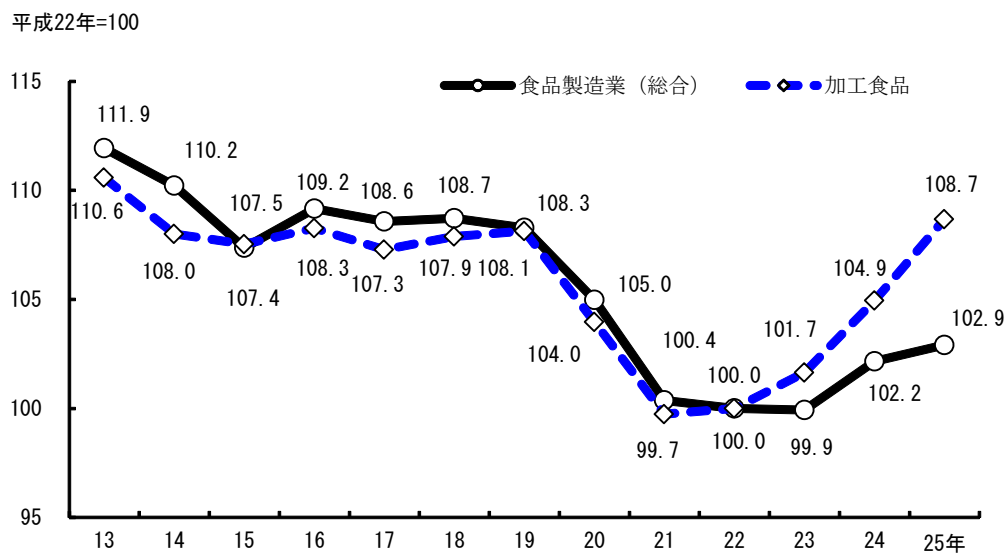
(2) 出荷指数

平成25年の食品製造業（総合）の出荷指数は102.9で、対前年比0.7%と前年並み

平成25年の食品製造業（総合）の出荷指数（平成22年=100）は102.9で、対前年比0.7%と前年並みとなった。また、加工食品の出荷指数（平成22年=100）は108.7で、対前年比3.6%とやや上昇した。特に、畜産食料品、水産食料品、製穀粉・同加工品、食用油・同加工品、飲料、調理食品はプラスに寄与し、一方、調味料、菓子、酒類はマイナスに寄与している。

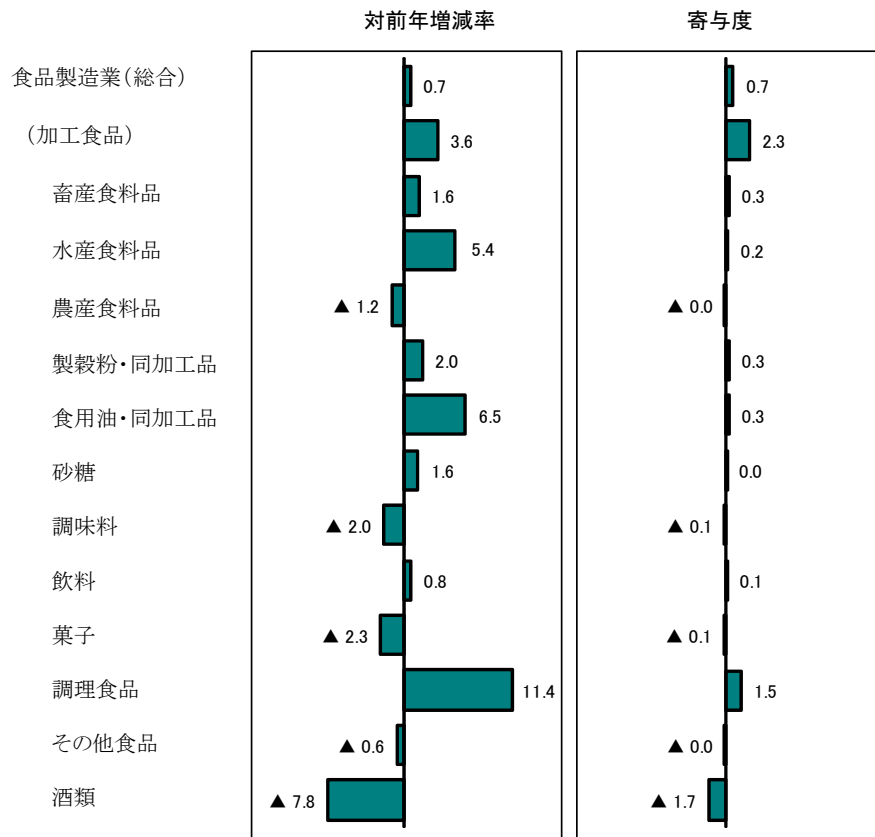
分野別にみると、調理食品がかなり大きく上昇し、食用油・同加工品がかなりの程度上昇し、水産食料品がやや上昇し、畜産食料品、製穀粉・同加工品及び砂糖がわずかに上昇した。一方、酒類がかなりの程度低下し、農産食料品、調味料及び菓子がわずかに低下した。また、飲料及びその他食品は前年並みとなった。

図2-3 食品製造業出荷指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図2-4 食品製造業の出荷指数の対前年増減率、寄与度



注：(加工食品) は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

表 2-2 食品製造業の出荷指数の推移

	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 25/24年
		22年	23年	24年	25年	22年	23年	24年	25年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	99.9	102.2	102.9	▲ 0.4	▲ 0.1	2.2	0.7	0.7
(加工食品)	6,390.0	100.0	101.7	104.9	108.7	0.3	1.7	3.2	3.6	2.3
畜産食料品	1,787.7	100.0	102.7	105.6	107.3	▲ 0.2	2.7	2.8	1.6	0.3
水産食料品	362.8	100.0	92.0	97.4	102.7	3.4	▲ 8.0	5.9	5.4	0.2
農産食料品	334.2	100.0	89.8	87.0	86.0	▲ 1.4	▲ 10.2	▲ 3.2	▲ 1.2	▲ 0.0
製穀粉・同加工品	1,423.3	100.0	102.3	101.5	103.5	1.0	2.3	▲ 0.9	2.0	0.3
食用油・同加工品	407.1	100.0	97.2	104.3	111.1	▲ 4.4	▲ 2.8	7.3	6.5	0.3
砂糖	22.1	100.0	98.9	97.8	99.3	1.5	▲ 1.1	▲ 1.1	1.6	0.0
調味料	267.6	100.0	98.6	96.5	94.6	▲ 0.7	▲ 1.4	▲ 2.2	▲ 2.0	▲ 0.1
飲料	1,315.6	100.0	95.8	97.6	98.3	▲ 4.1	▲ 4.2	1.9	0.8	0.1
菓子	554.3	100.0	101.2	99.8	97.5	0.7	1.2	▲ 1.3	▲ 2.3	▲ 0.1
調理食品	1,112.3	100.0	109.0	122.2	136.1	1.3	9.0	12.2	11.4	1.5
その他食品	118.6	100.0	96.9	95.2	94.6	1.4	▲ 3.1	▲ 1.8	▲ 0.6	▲ 0.0
酒類	2,294.4	100.0	97.5	97.0	89.5	0.1	▲ 2.5	▲ 0.5	▲ 7.8	▲ 1.7

注：(加工食品) は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

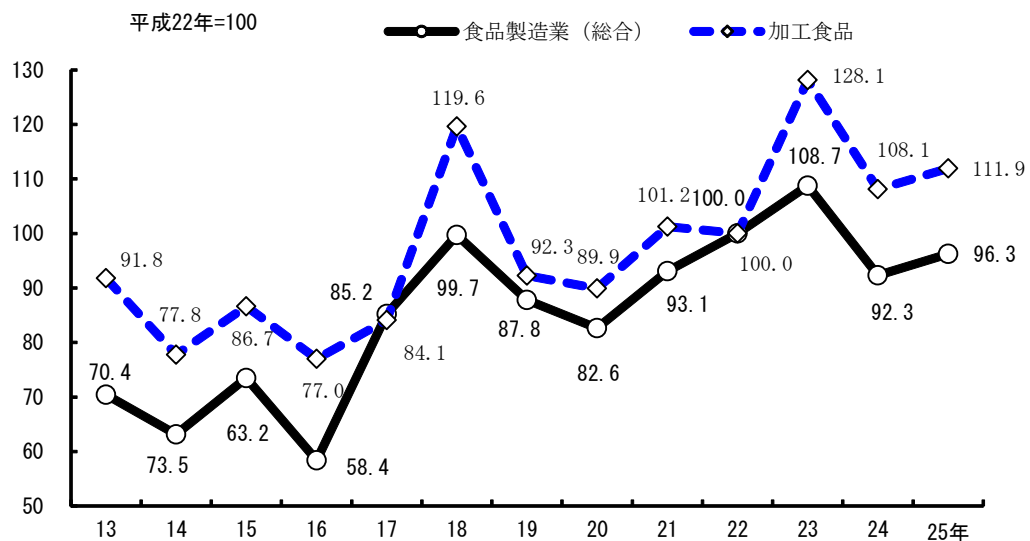
(3) 在庫指数

平成25年の食品製造業（総合）の在庫指数は96.3で、対前年比4.3%とやや上昇

平成25年の食品製造業（総合）の在庫指数（平成22年=100）は96.3で、対前年比4.3%とやや上昇した。また、加工食品の在庫指数（平成22年=100）も111.9で、対前年比3.5%とやや上昇した。

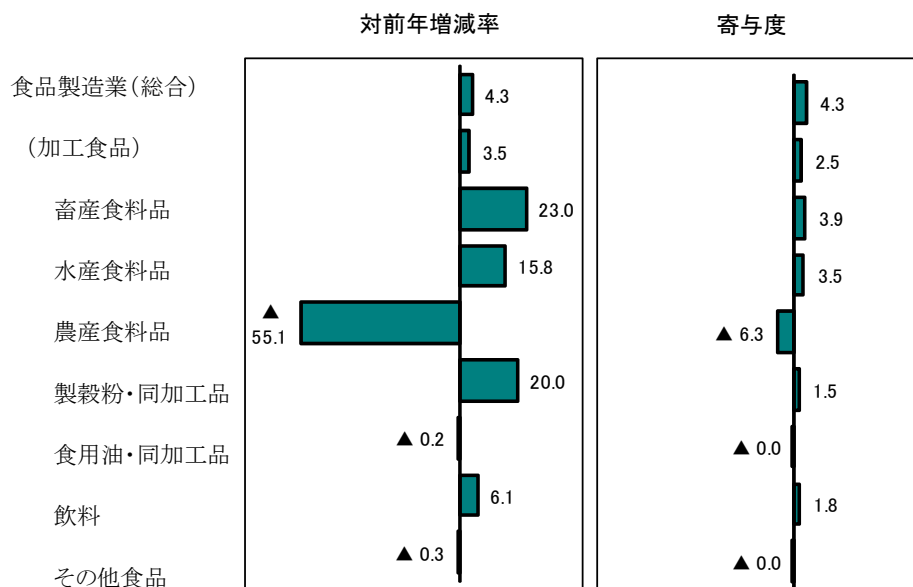
分野別にみると、畜産食料品及び製穀粉・同加工品が大幅に上昇し、水産食料品がかなり大きく上昇し、飲料がかなりの程度上昇した。一方、農産食料品が大幅に低下し、また食用油・同加工品及びその他食品は前年並みとなった。

図2-5 食品製造業在庫指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図2-6 食品製造業の在庫指数の対前年増減率、寄与度



注：(加工食品)は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

表 2-3 食品製造業の在庫指数の推移

	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 25/24年
		22年	23年	24年	25年	22年	23年	24年	25年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	108.7	92.3	96.3	7.4	8.7	▲ 15.1	4.3	4.3
(加工食品)	6,034.3	100.0	128.1	108.1	111.9	▲ 1.2	28.1	▲ 15.6	3.5	2.5
畜産食料品	1,455.0	100.0	175.6	106.3	130.8	▲ 14.1	75.6	▲ 39.4	23.0	3.9
水産食料品	1,605.0	100.0	124.5	125.5	145.4	15.3	24.5	0.8	15.8	3.5
農産食料品	1,001.5	100.0	108.7	106.0	47.6	15.6	8.7	▲ 2.5	▲ 55.1	▲ 6.3
製穀粉・同加工品	794.7	100.0	95.4	89.3	107.2	▲ 21.8	▲ 4.6	▲ 6.3	20.0	1.5
食用油・同加工品	716.1	100.0	111.9	107.3	107.0	▲ 2.4	11.9	▲ 4.1	▲ 0.2	▲ 0.0
飲料	3,965.7	100.0	79.2	68.3	72.4	23.8	▲ 20.8	▲ 13.8	6.1	1.8
その他食品	462.2	100.0	114.8	91.7	91.4	13.8	14.8	▲ 20.1	▲ 0.3	▲ 0.0

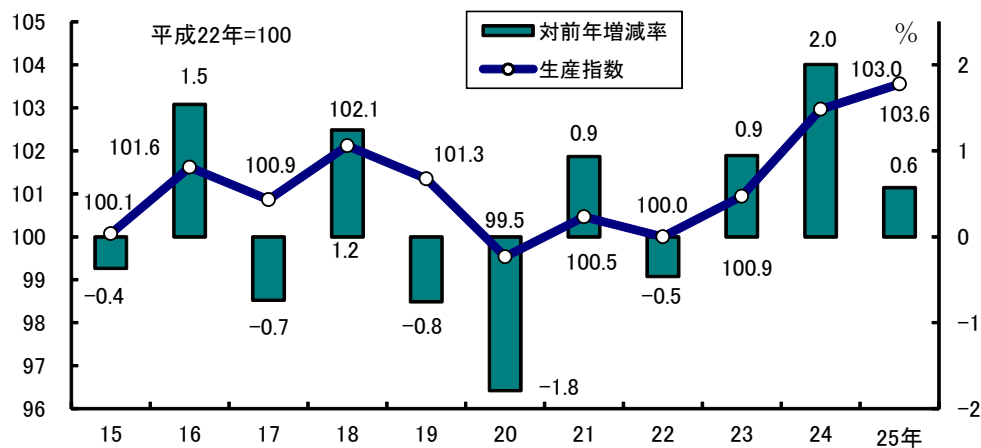
注：(加工食品)は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

1 畜産食料品

平成 25 年の畜産食料品の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 103.6 で、対前年比 0.6 %と前年並みとなった。平成 22 年以降上昇傾向で推移しており、平成 25 年において、食肉加工品、乳飲料、はっ酵乳・乳酸菌飲料及びアイスクリームが寄与している。

品目別にみると、食肉缶・びん詰が大幅に上昇し、はっ酵乳・乳酸菌飲料及びアイスクリームはやや上昇した。食肉加工品及び乳飲料ははわずかに上昇した。一方、飲用牛乳及び乳製品がわずかに低下した。

図2-7 畜産食料品の生産指数の推移



食肉加工品はわずかに増加、ハム類・ベーコン類は前年並み、ソーセージ類はわずかに増加

食肉加工品の生産量は 53 万トンで、対前年比 1.0 %とわずかに増加した。内訳についてみると、ハム類の生産量は 10 万 7 千トンで対前年比▲ 0.7 %と前年並み、またベーコン類についても生産量が 8 万 7 千トンで対前年比 0.5 %と前年並み、ソーセージ類については生産量が 30 万 7 千トンで対前年比 1.7 %でわずかに増加した。

飲用牛乳はわずかに減少、乳飲料はわずかに増加、はっ酵乳・乳酸菌飲料はやや増加

飲用牛乳の生産量は 303 万 1 千 kl で対前年比▲ 2.2 %とわずかに減少した。一方、乳飲料は 136 万 6 千 kl で対前年比 2.9 %でわずかに増加、はっ酵乳・乳酸菌飲料も 169 万 8 千 kl で対前年比 3.3 %とやや増加した。

乳製品の生産指数はわずかに低下、粉乳類の減少が影響

乳製品の生産指数は 100.8 で対前年比▲ 1.2 %とわずかに低下した。内訳についてみると、全粉乳の生産量は 1 万 1 千トンで対前年比▲ 13.5 %とかなり大きく減少した。これは、生乳の需給がひっ迫し、加工向け乳製品への供給が不足したためとみられる。また脱脂粉乳についても 13 万 6 千トンで対前年比▲ 1.6 %とわずかに減少した。

図2-8 畜産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

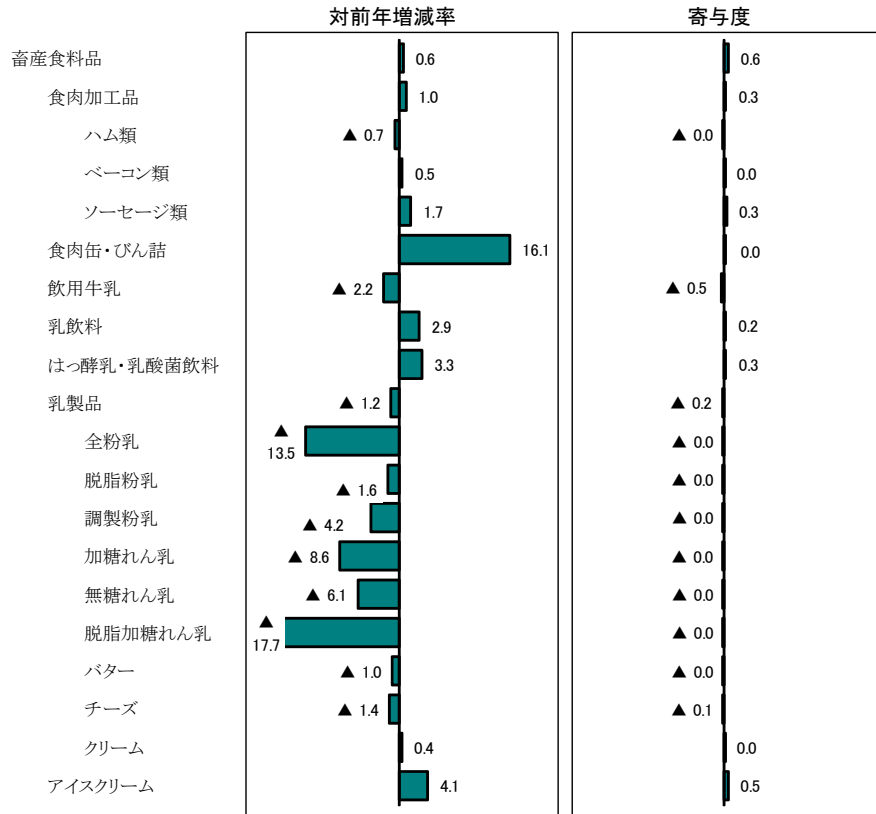


表 2-4 畜産食料品の品目別生産指数の推移

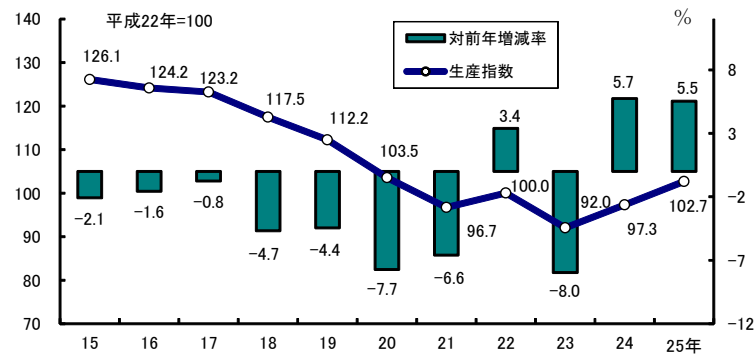
年 次 品 目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 25/24年
		22年	23年	24年	25年	22年	23年	24年	25年	
畜産食料品	1,581.5	100.0	100.9	103.0	103.6	▲ 0.5	0.9	2.0	0.6	0.6
食肉加工品	457.8	100.0	101.9	104.0	105.0	▲ 0.9	1.9	2.0	1.0	0.3
ハム類	99.1	100.0	102.5	104.6	103.9	▲ 2.2	2.5	2.0	▲ 0.7	▲ 0.0
ベーコン類	77.7	100.0	104.0	106.8	107.3	▲ 0.5	4.0	2.6	0.5	0.0
ソーセージ類	280.9	100.0	101.2	103.0	104.7	▲ 0.5	1.2	1.8	1.7	0.3
食肉缶・びん詰	1.5	100.0	73.9	95.6	111.0	▲ 0.7	▲ 26.1	29.4	16.1	0.0
飲用牛乳	370.8	100.0	97.5	95.7	93.6	▲ 1.5	▲ 2.5	▲ 1.8	▲ 2.2	▲ 0.5
乳飲料	103.5	100.0	105.3	109.6	112.8	2.1	5.3	4.1	2.9	0.2
はっ酵乳・乳酸菌飲料	122.7	100.0	102.0	114.4	118.2	1.3	2.0	12.1	3.3	0.3
乳製品	334.2	100.0	99.5	102.0	100.8	▲ 1.3	▲ 0.5	2.5	▲ 1.2	▲ 0.2
全粉乳	3.0	100.0	107.9	94.0	81.2	5.5	7.9	▲ 12.9	▲ 13.5	▲ 0.0
脱脂粉乳	35.3	100.0	88.1	89.1	87.6	▲ 7.0	▲ 11.9	1.1	▲ 1.6	▲ 0.0
調製粉乳	7.5	100.0	83.7	72.6	69.6	▲ 5.6	▲ 16.3	▲ 13.2	▲ 4.2	▲ 0.0
加糖れん乳	8.2	100.0	100.4	104.1	95.1	▲ 7.5	0.4	3.7	▲ 8.6	▲ 0.0
無糖れん乳	0.2	100.0	85.8	75.6	71.0	1.3	▲ 14.2	▲ 11.9	▲ 6.1	▲ 0.0
脱脂加糖れん乳	1.0	100.0	107.3	108.3	89.2	▲ 15.9	7.3	1.0	▲ 17.7	▲ 0.0
バター	53.2	100.0	85.4	93.7	92.8	▲ 8.8	▲ 14.6	9.8	▲ 1.0	▲ 0.0
チーズ	119.5	100.0	105.1	108.1	106.6	2.3	5.1	2.8	▲ 1.4	▲ 0.1
クリーム	106.3	100.0	104.8	105.6	106.0	1.9	4.8	0.8	0.4	0.0
アイスクリーム	191.1	100.0	105.0	105.5	109.8	1.5	▲ 5.0	0.5	4.1	0.5

2 水産食料品

平成 25 年の水産食料品の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 102.7 で、対前年比 5.5 %とやや上昇した。平成 23 年以降上昇傾向で推移しており、なかでもちくわかまぼこ類の上昇が大きく寄与している。

品目別にみると、水産練製品（ちくわかまぼこ類）がかなりの程度上昇した。一方、水産缶・びん詰はかなりの程度低下した。

図2-9 水産食料品の生産指数の推移



ちくわかまぼこ類はかなりの程度増加、水産缶・びん詰はかなりの程度減少

ちくわかまぼこ類の生産量は 51 万 6 千トンで、対前年比 8.7 %とかなりの程度増加した。これは、コンビニエンスストアでのおでん用商材としての需要拡大等が寄与しているとみられる。一方、水産缶・びん詰の生産量は 8 万 5 千トンで、対前年比▲ 7.7 %とかなりの程度減少した。これは、原料魚価高騰の影響が一因とみられる。

図2-10 水産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

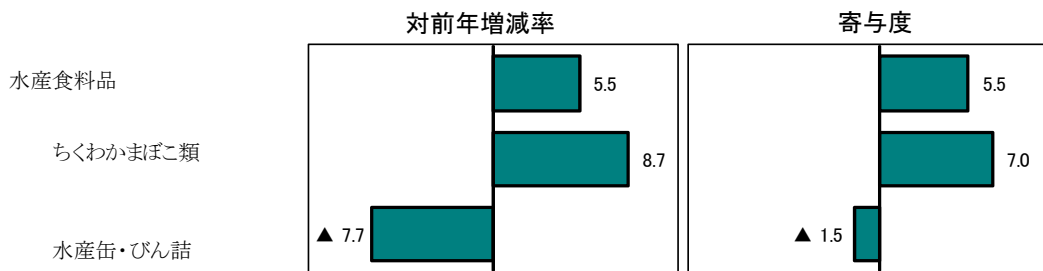


表 2-5 水産食料品の品目別生産指数の推移

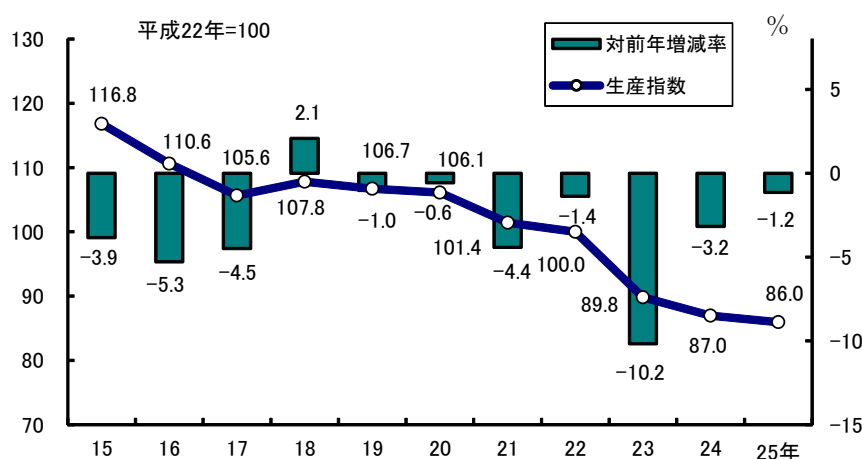
年次 品目	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 25/24年
		22年	23年	24年	25年	22年	23年	24年	25年	
水産食料品	321.0	100.0	92.0	97.3	102.7	3.4	▲ 8.0	5.7	5.5	5.5
ちくわかまぼこ類	249.5	100.0	98.9	101.2	110.0	6.6	▲ 1.1	2.3	8.7	7.0
水産缶・びん詰	71.5	100.0	67.9	83.7	77.3	▲ 6.4	▲ 32.1	23.3	▲ 7.7	▲ 1.5

3 農産食料品

平成 25 年の農産食料品の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 86.0 で、対前年比▲ 1.2 %とわずかに低下した。平成 15 年以降低下傾向に歯止めがかからず、農産缶・びん詰め及び乾燥野菜が低下に影響している。

品目別にみると、乾燥野菜は大幅に、農産缶・びん詰はかなりの程度低下した。一方、漬物及びトマト加工品は前年並みとなった。

図2-11 農産食料品の生産指数の推移



漬物は前年並み

漬物の生産量は 71 万 9 千トンで、対前年比 0.0 %と前年並みとなった。内訳についてみると、塩漬類の生産量は 9 万 9 千トンで対前年比 1.0 %とわずかに増加、酢漬類の生産量は 7 万 1 千トンで対前年比▲ 8.6 %とかなりの程度減少した。また、浅漬の生産量は 10 万 9 千トンで対前年比 7.3 %とかなりの程度増加した。これは、前年に発生した食中毒事件から回復している状況と伺える。また、醤油漬は 34 万 1 千トンで対前年比▲ 0.1 %と前年並みとなった。

農産缶・びん詰はかなりの程度減少

農産缶・びん詰の生産量は 12 万 8 千トンで、対前年比▲ 7.3 %とかなりの程度減少した。内訳についてみると、野菜缶が 2 万 7 千トンで対前年比▲ 27.3 %と大幅に減少した。近年加工野菜の消費については多様化しており、レトルトや冷凍での消費、また紙パックでの野菜ジュースの浸透等も野菜缶の減少に影響しているとみられる。またジャムびんの生産量は 2 万 2 千トンで、対前年比▲ 22.3 %と大幅に減少した。一方、果実缶は 7 万 9 千トンで対前年比 15.5 %とかなり大きく増加した。

トマト加工品は前年並み

トマト加工品の生産量は 10 万 3 千トンで、対前年比 0.6 %と前年並みとなった。トマトケ

チャップ及びトマトピューレは前年を上回ったが、その他トマトが前年を下回り、全体では前年並みとなった。

図2-12 農産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

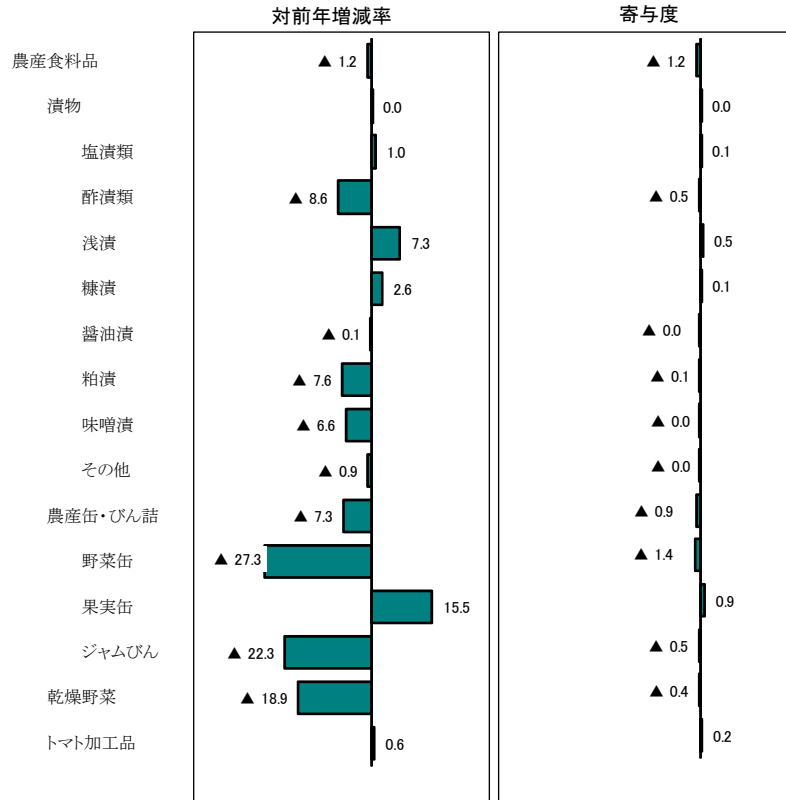


表 2-6 農産食料品の品目別生産指数の推移

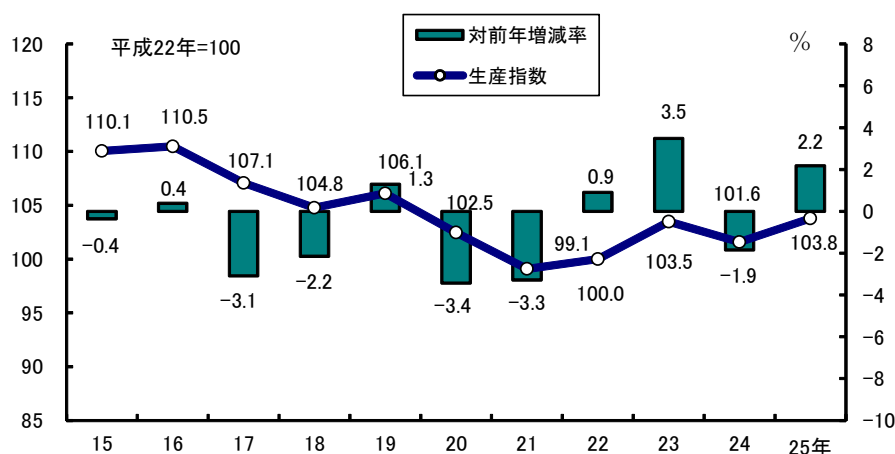
年次 品目	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 25/24年
		22年	23年	24年	25年	22年	23年	24年	25年	
農産食料品	451.3	100.0	89.8	87.0	86.0	▲ 1.4	▲ 10.2	▲ 3.2	▲ 1.2	▲ 1.2
漬物	234.3	100.0	88.5	82.4	82.4	▲ 4.1	▲ 11.5	▲ 7.0	0.0	0.0
塩漬類	36.0	100.0	83.0	73.1	73.8	1.6	▲ 17.0	▲ 11.9	1.0	0.1
酢漬類	26.5	100.0	102.8	78.6	71.8	▲ 0.4	2.8	▲ 23.6	▲ 8.6	▲ 0.5
浅漬	41.7	100.0	75.0	65.7	70.5	▲ 0.3	▲ 25.0	▲ 12.4	7.3	0.5
糠漬	20.0	100.0	70.0	70.1	72.0	▲ 10.0	▲ 30.0	0.2	2.6	0.1
醤油漬	96.2	100.0	96.0	95.3	95.2	▲ 8.1	▲ 4.0	▲ 0.6	▲ 0.1	▲ 0.0
粕漬	9.2	100.0	83.4	79.8	73.8	6.4	▲ 16.6	▲ 4.2	▲ 7.6	▲ 0.1
味噌漬	2.0	100.0	102.1	98.4	91.9	▲ 1.7	2.1	▲ 3.7	▲ 6.6	▲ 0.0
その他	2.7	100.0	112.3	125.6	124.4	▲ 5.5	12.3	11.9	▲ 0.9	▲ 0.0
農産缶・びん詰	61.3	100.0	75.9	82.4	76.4	3.7	▲ 24.1	8.6	▲ 7.3	▲ 0.9
野菜缶	28.2	100.0	76.8	69.9	50.8	▲ 2.4	▲ 23.2	▲ 9.0	▲ 27.3	▲ 1.4
果実缶	22.8	100.0	77.7	99.4	114.8	15.9	▲ 22.3	27.8	15.5	0.9
ジャムびん	10.3	100.0	69.3	79.3	61.6	▲ 2.5	▲ 30.7	14.4	▲ 22.3	▲ 0.5
乾燥野菜	14.2	100.0	84.2	64.9	52.7	▲ 3.6	▲ 15.8	▲ 22.9	▲ 18.9	▲ 0.4
トマト加工品	141.5	100.0	98.5	98.7	99.4	1.4	▲ 1.5	0.2	0.6	0.2

4 製穀粉・同加工品

平成 25 年の製穀粉・同加工品の生産指数（平成 22 年=100）は 103.8 で、対前年比 2.2 %とわずかに上昇した。平成 15 年以降低下傾向で推移していたが、平成 21 年を境に上昇傾向に転じており、平成 25 年は特にめん類が寄与している。

品目別にみると、製穀粉及びめん類がやや上昇し、パン粉はわずかに上昇した。また、パン類は前年並みとなった。

図2-13 製穀粉・同加工品の生産指数の推移



製穀粉はやや増加

製穀粉の生産量は 45 万 1 千トンで、対前年比 3.8 %とやや増加した。プレミックスが▲ 1.6 %とわずかに減少したものの、米穀粉が 6.4 %とかなりの程度増加したことが寄与している。これは、新規米粉の生産が増加したことが寄与しているとみられる。

めん類はやや増加、即席めんはかなりの程度増加

めん類の生産量は 131 万 8 千トンで対前年比 4.8 %とやや増加した。内訳についてみると、生めん類の生産量は 56 万 2 千トンで対前年比 3.8 %とやや増加した。また乾めん類も 21 万 3 千トンで、対前年比 4.4 %とやや増加した。即席めんは 38 万 6 千トンで対前年比 6.2 %とかなりの程度増加した。これは、より生めんに近いノンフライ麺商品の需要拡大等が寄与しているとみられる。また、マカロニ・スパゲティは 15 万 7 千トンで対前年比 2.1 %とわずかに増加した。

パン類は前年並み

パン類の生産量は 122 万 6 千トンで対前年比▲ 0.2 %と前年並みとなった。内訳についてみると、食パンの生産量は 59 万 8 千トンで対前年比 3.1 %とやや増加、また、学校給食パンは 2 万 6 千トンで対前年比 1.4 %とわずかに増加した。一方、菓子パンは 38 万 3 千トンで対前年比▲ 2.2 %とわずかに減少した。その他パンも 21 万 8 千トンで対前年比▲ 1.2 %

とわずかに減少した。

図2-14 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

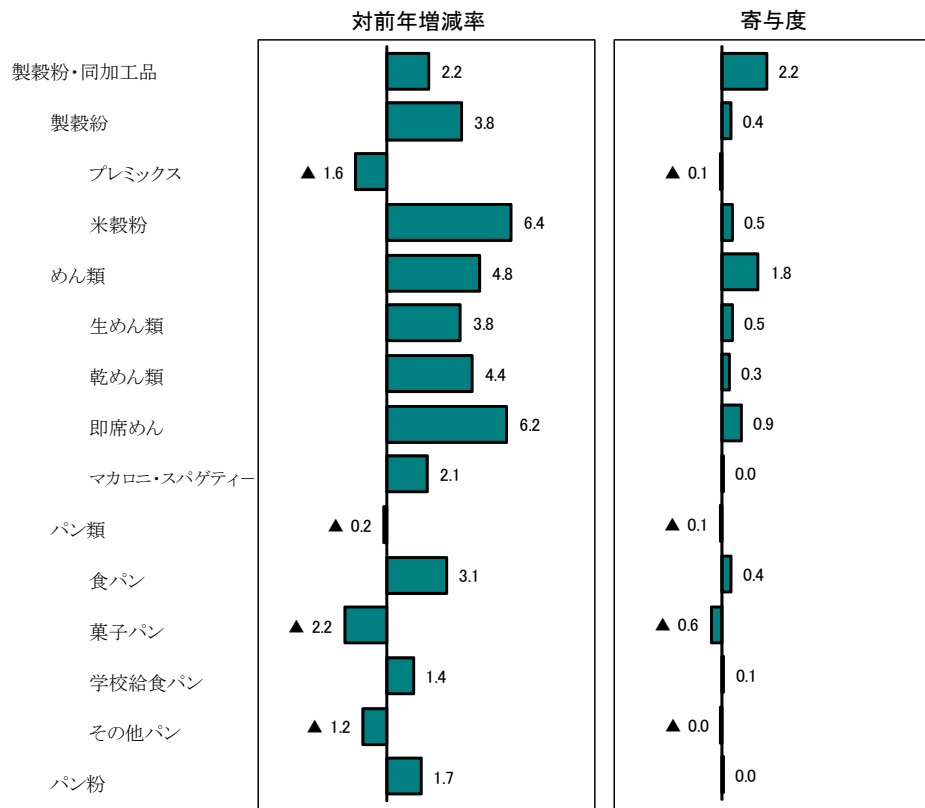


表 2-7 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の推移

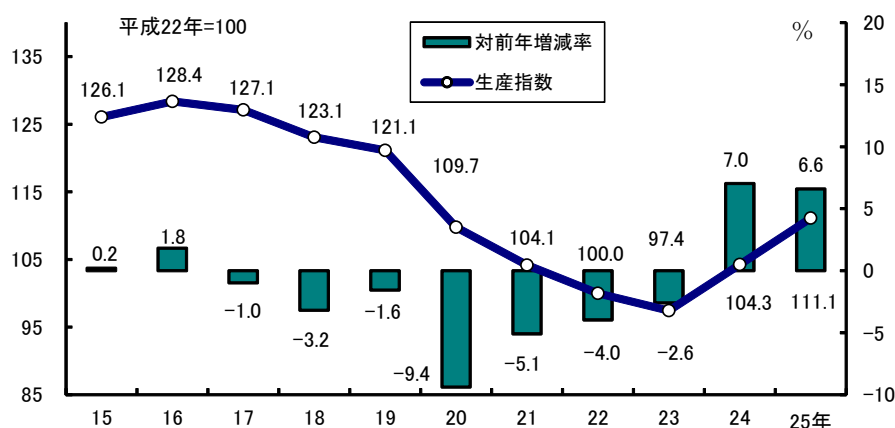
年次 品目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 25/24年
		22年	23年	24年	25年	22年	23年	24年	25年	
製穀粉・同加工品	1,577.6	100.0	103.5	101.6	103.8	0.9	3.5	▲ 1.9	2.2	2.2
製穀粉	172.5	100.0	112.9	102.4	106.4	1.1	12.9	▲ 9.3	3.8	0.4
プレミックス	58.6	100.0	98.7	96.6	95.0	3.5	▲ 1.3	▲ 2.2	▲ 1.6	▲ 0.1
米穀粉	113.9	100.0	120.2	105.4	112.2	▲ 0.1	20.2	▲ 12.3	6.4	0.5
めん類	587.0	100.0	103.6	102.8	107.7	▲ 1.5	3.6	▲ 0.8	4.8	1.8
生めん類	206.6	100.0	98.8	97.7	101.4	▲ 2.6	▲ 1.2	▲ 1.2	3.8	0.5
乾めん類	123.5	100.0	103.2	100.7	105.1	4.8	3.2	▲ 2.4	4.4	0.3
即席めん	221.8	100.0	108.7	109.3	116.1	▲ 3.9	8.7	0.6	6.2	0.9
マカロニ・スパゲティ	35.1	100.0	101.5	98.4	100.4	0.1	1.5	▲ 3.1	2.1	0.0
パン類	787.4	100.0	101.6	100.6	100.5	2.7	1.6	▲ 0.9	▲ 0.2	▲ 0.1
食パン	224.3	100.0	100.7	100.8	103.8	0.6	0.7	0.1	3.1	0.4
菓子パン	389.5	100.0	104.3	104.4	102.1	5.1	4.3	0.1	▲ 2.2	▲ 0.6
学校給食パン	115.2	100.0	94.7	86.6	87.8	1.5	▲ 5.3	▲ 8.6	1.4	0.1
その他パン	58.4	100.0	100.0	102.8	101.5	▲ 2.0	0.0	2.7	▲ 1.2	▲ 0.0
パン粉	30.7	100.0	97.6	98.2	99.9	1.5	▲ 2.4	0.6	1.7	0.0

5 食用油・同加工品

平成 25 年の食用油・同加工品の生産指数（平成 22 年=100）は 111.1 で、対前年比 6.6 %とかなりの程度上昇した。平成 23 年までは低下傾向で推移したが、その後は前年を上昇傾向で推移しており、加工油脂が寄与している。

品目別にみると、植物油脂はかなりの程度上昇し、加工油脂はやや上昇した。

図2-15 食用油・同加工品の生産指数の推移



植物油脂はかなりの程度増加、加工油脂はやや増加

植物油脂の生産量は 162 万 1 千トンで対前年比 10.0 %とかなりの程度増加した。これは、健康の効能を訴求した商品の需要拡大が背景にあるとみられる。また、加工油脂の生産量は 53 万 7 千トンで対前年比 5.4 %とやや増加した。加工油脂について内訳をみると、マーガリンは 16 万トンで対前年比 0.7 %と前年並みであったものの、ショートニングの生産量は 23 万 8 千トンで対前年比 3.7 %とやや増加した。また、食用精製加工油脂は 3 万 8 千トンで、対前年比 9.4 %とかなりの程度増加した。

図2-16 食用油・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

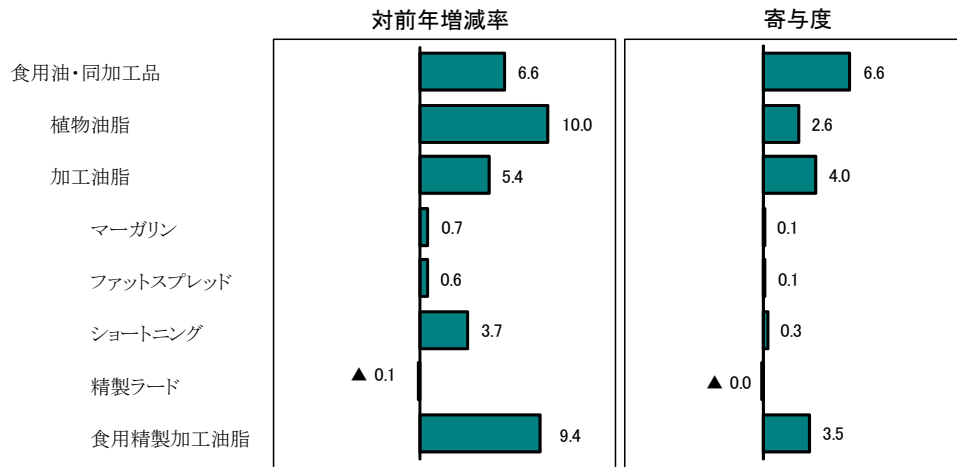


表 2-8 食用油・同加工品の品目別生産指数の推移

年 次 品 目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 25/24年
		22年	23年	24年	25年	22年	23年	24年	25年	
食用油・同加工品	360.2	100.0	97.4	104.3	111.1	▲ 4.0	▲ 2.6	7.0	6.6	6.6
植物油脂	111.3	100.0	88.8	88.9	97.8	3.5	▲ 11.2	0.1	10.0	2.6
加工油脂	248.9	100.0	101.3	111.1	117.1	▲ 7.0	1.3	9.7	5.4	4.0
マーガリン	31.2	100.0	100.2	100.0	100.6	▲ 0.1	0.2	▲ 0.3	0.7	0.1
ファットスプレッド	69.7	100.0	100.3	100.0	100.6	▲ 0.1	0.3	▲ 0.4	0.6	0.1
ショートニング	26.7	100.0	99.0	112.1	116.3	▲ 1.4	▲ 1.0	13.3	3.7	0.3
精製ラード	5.3	100.0	102.4	101.1	101.1	▲ 45.0	2.4	▲ 1.2	▲ 0.1	▲ 0.0
食用精製加工油脂	115.9	100.0	102.6	121.0	132.3	▲ 10.6	2.6	18.0	9.4	3.5

6 砂糖

平成 25 年の砂糖の生産指数（平成 22 年=100、一部推定を含む暫定値）は 99.3 で、対前年比 1.6 %とわずかに上昇した。特に、上白及びグラニュー等の上昇が寄与している。近年の砂糖の推移についてみると、平成 22 年以降低下傾向で推移していたが、平成 25 年は上昇に転じた。

品目別にみると、白双及び三温がやや上昇した。またグラニュー等及び上白がわずかに上昇した。一方、中白及び角糖がかなり大きく低下し、中双はやや低下した。

図2-17 砂糖の生産指数の推移

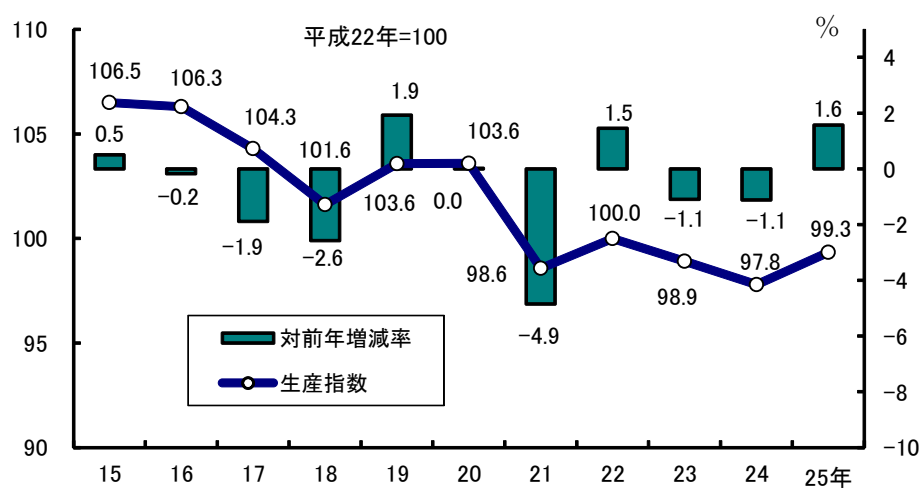


図 2-18 砂糖の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

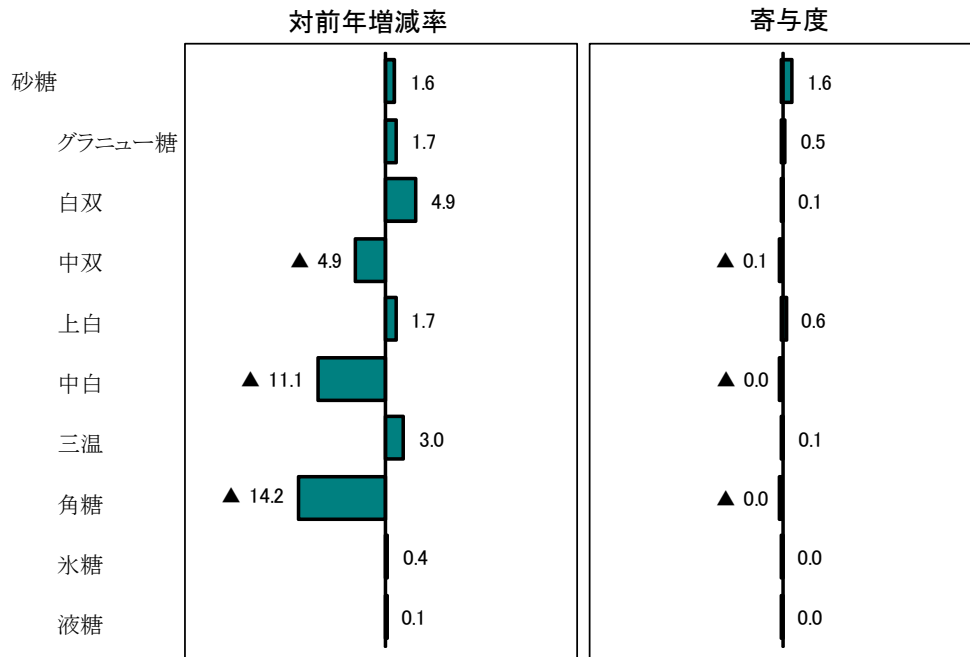


表2-9 砂糖の品目別生産指数の推移

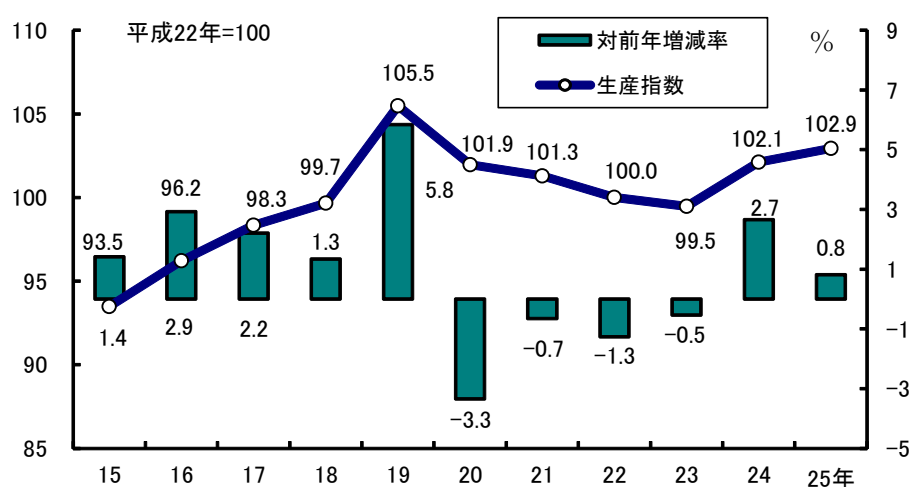
年次 品目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 25/24年
		22年	23年	24年	25年	22年	23年	24年	25年	
砂糖	19.5	100.0	98.9	97.8	99.3	1.5	▲ 1.1	▲ 1.1	1.6	1.6
グラニュー糖	5.9	100.0	99.9	96.8	98.5	8.1	▲ 0.1	▲ 3.1	1.7	0.5
白双	0.4	100.0	97.1	92.6	97.2	▲ 3.2	▲ 2.9	▲ 4.7	4.9	0.1
中双	0.4	100.0	94.5	87.5	83.2	▲ 2.6	▲ 5.5	▲ 7.5	▲ 4.9	▲ 0.1
上白	7.3	100.0	97.5	95.9	97.5	▲ 3.7	▲ 2.5	▲ 1.6	1.7	0.6
中白	0.0	100.0	81.5	81.1	72.1	▲ 1.7	▲ 18.5	▲ 0.5	▲ 11.1	▲ 0.0
三温	1.0	100.0	101.1	94.5	97.3	▲ 2.8	1.1	▲ 6.6	3.0	0.1
角糖	0.1	100.0	79.2	70.3	60.3	8.7	▲ 20.8	▲ 11.2	▲ 14.2	▲ 0.0
冰糖	0.1	100.0	98.8	101.6	102.0	▲ 12.2	▲ 1.2	2.9	0.4	0.0
液糖	4.2	100.0	99.7	104.7	104.8	3.1	▲ 0.3	5.0	0.1	0.0

7 調味料

平成 25 年の調味料の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 102.9 で、対前年比 0.8 % と前年並みとなった。

品目別にみると、ドレッシングがわずかに上昇した。一方、みそはやや低下し、しょうゆがわずかに低下した。またマヨネーズは前年並みとなった。近年の調味料の推移についてみると、平成 23 年まで原料価格の高騰の影響から低下傾向で推移していたが、その後は上昇傾向で推移している。

図2-19 調味料の生産指数の推移



しょうゆはわずかに減少、みそはやや減少

しょうゆの生産量は 79 万 3 千 kl で対前年比▲ 1.1 %とわずかに減少した。また、みそも 42 万 6 千トンで対前年比▲ 3.7 %とやや減少した。

マヨネーズは前年並み、ドレッシングはわずかに増加

マヨネーズの生産量は 21 万トンで、対前年比 0.6 %と前年並みとなった。ドレッシングの生産量は 19 万 9 千トンで、対前年比 2.1 %とわずかに増加した。

図2-20 調味料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

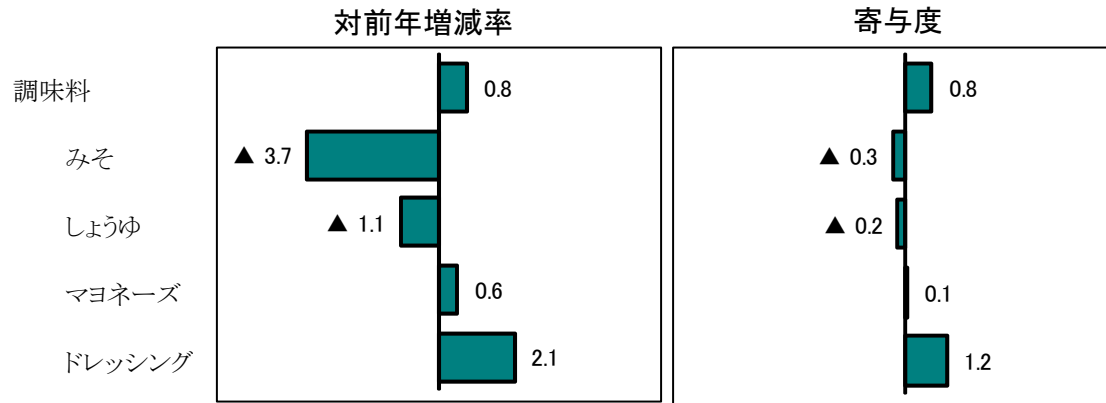


表 2-10 調味料の品目別生産指数の推移

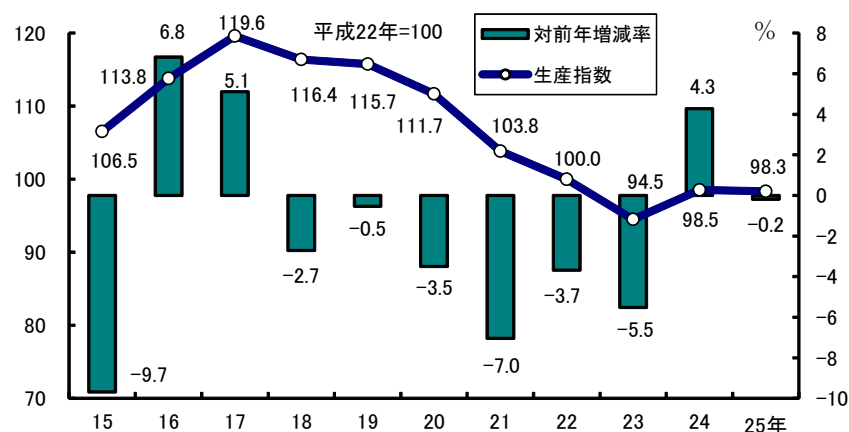
年次 品目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度
		22年	23年	24年	25年	22年	23年	24年	25年	25/24年
調味料	865.0	100.0	99.5	102.1	102.9	▲ 1.3	▲ 0.5	2.7	0.8	0.8
みそ	83.9	100.0	98.7	95.7	92.2	1.3	▲ 1.3	▲ 3.1	▲ 3.7	▲ 0.3
しょうゆ	152.8	100.0	98.6	96.9	95.9	▲ 1.8	▲ 1.4	▲ 1.7	▲ 1.1	▲ 0.2
マヨネーズ	142.9	100.0	101.4	102.2	102.8	▲ 2.3	1.4	0.8	0.6	0.1
ドレッシング	485.4	100.0	99.3	104.8	107.1	▲ 1.2	▲ 0.7	5.6	2.1	1.2

8 飲料

平成 25 年の飲料の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 98.3 で、対前年比▲ 0.2 %と前年並みとなった。特に、コーヒー・茶系飲料の上昇が寄与している。

品目別にみると炭酸飲料及びコーヒー・茶系飲料がいずれもわずかに上昇した。一方、果実飲料はやや低下し、トマト飲料はかなり大きく低下した。近年の飲料の推移についてみると、平成 23 年まで低下傾向で推移していた、その後は回復の兆しが見受けられる。

図2-21 飲料の生産指数の推移



炭酸飲料はわずかに増加、果実飲料はやや減少

炭酸飲料の生産量は 254 万 3 千 kl で対前年比 1.3 %とわずかに増加した。一方、果実飲料の生産量は 87 万 3 千 kl で対前年比▲ 5.4 %とやや減少した。

コーヒー・茶系飲料はわずかに増加

コーヒー・茶系飲料の生産量は 869 万 5 千 kl で対前年比 2.7 %とわずかに増加した。

トマト飲料はかなり大きく減少

トマト飲料の生産量は 8 万 9 千 kl で対前年比▲ 13.3 %とかなり大きく減少した。前年のトマトの健康機能の報道による需要拡大の反動によるとみられる。

図2-22 飲料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

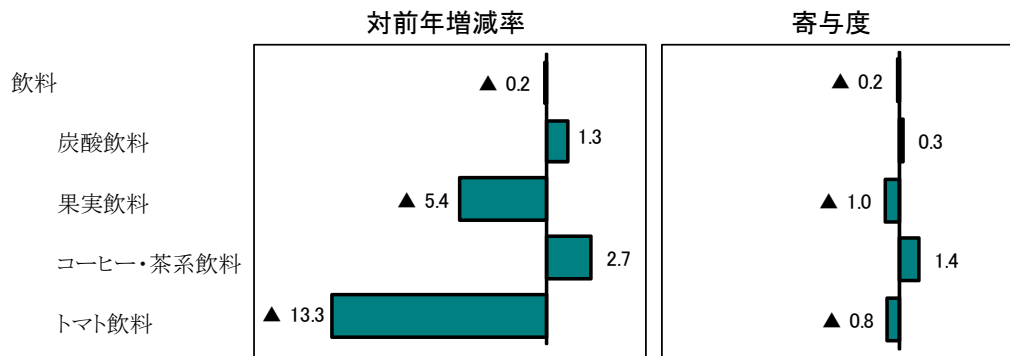


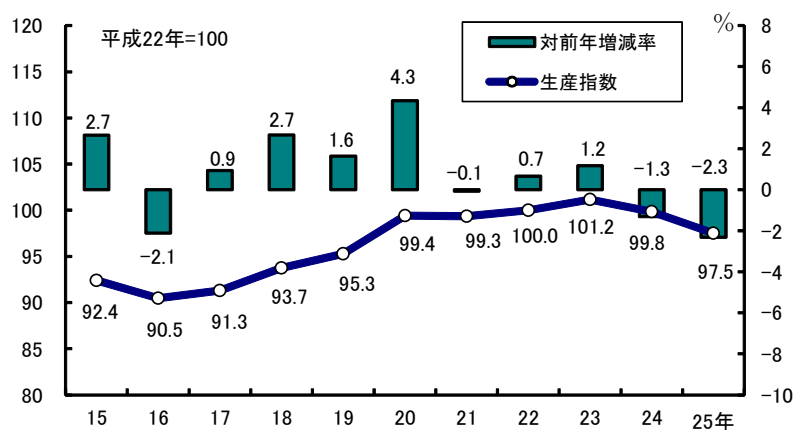
表 2-11 飲料の品目別生産指数の推移

年次 品目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 25/24年
		22年	23年	24年	25年	22年	23年	24年	25年	
飲料	1,214.6	100.0	94.5	98.5	98.3	▲ 3.7	▲ 5.5	4.3	▲ 0.2	▲ 0.2
炭酸飲料	261.8	100.0	101.7	101.0	102.3	2.7	1.7	▲ 0.6	1.3	0.3
果実飲料	285.5	100.0	78.1	81.4	77.0	▲ 18.0	▲ 21.9	4.2	▲ 5.4	▲ 1.0
コーヒー・茶系飲料	616.5	100.0	99.1	101.3	104.0	1.4	▲ 0.9	2.2	2.7	1.4
トマト飲料	50.7	100.0	93.5	148.3	128.6	2.5	▲ 6.5	58.6	▲ 13.3	▲ 0.8

9 菓子

平成 25 年の菓子の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 97.5 で、対前年比▲ 2.3 %とわずかに低下した。品目別にみると、ビスケットはわずかに低下し、米菓はやや低下した。

図2-23 菓子の生産指数の推移



ビスケットはわずかに減少、米菓はやや減少

ビスケットの生産量は 23 万 6 千トンで対前年比▲ 1.3 %とわずかに減少した。また米菓の生産量は 21 万 7 千トンで対前年比▲ 3.7 %とやや減少した。

図2-24 菓子の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

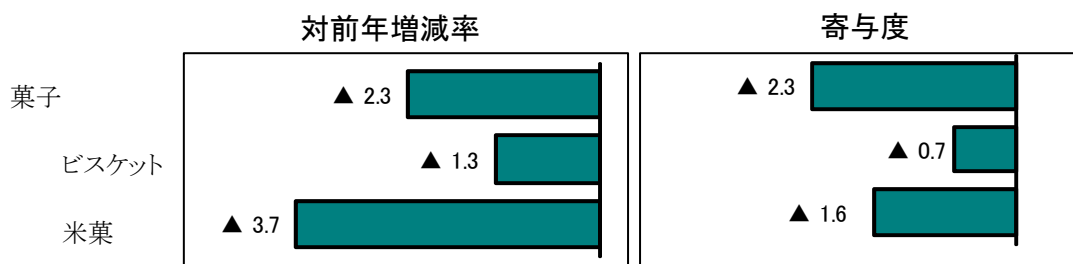


表 1-12 菓子の品目別生産指数の推移

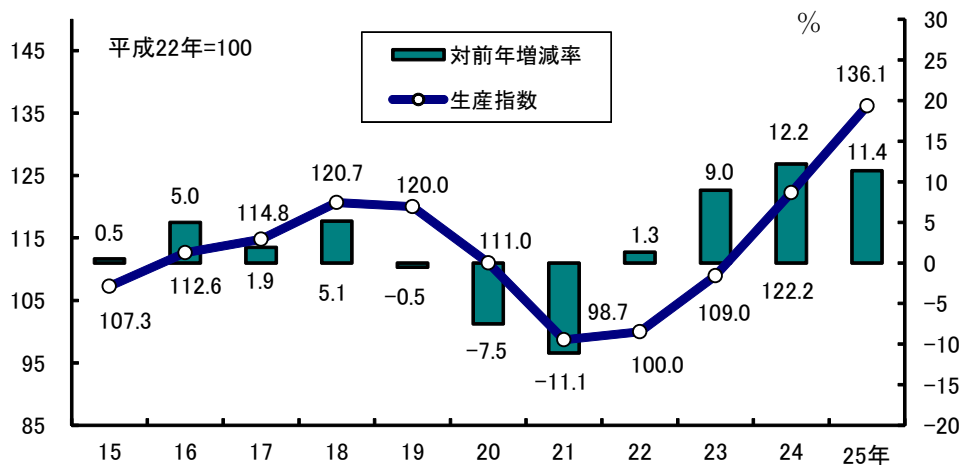
年次 品目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 25/24年
		22年	23年	24年	25年	22年	23年	24年	25年	
菓子	490.4	100.0	101.2	99.8	97.5	0.7	1.2	▲ 1.3	▲ 2.3	▲ 2.3
ビスケット	274.7	100.0	100.6	99.3	98.0	▲ 0.6	0.6	▲ 1.4	▲ 1.3	▲ 0.7
米菓	215.7	100.0	101.9	100.6	96.9	2.3	1.9	▲ 1.2	▲ 3.7	▲ 1.6

10 調理食品

平成 25 年の調理食品の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 136.1 で、対前年比 11.4 %とかなり大きく上昇した。特に加工米飯の上昇が全体の上昇に寄与している。

近年の調理食品の推移についてみると、平成 21 年まで減少傾向で推移したが、その後は上昇に転じており、特に平成 23 年の東日本大震災以降は加工米飯等の備蓄需要への対応のため、生産が拡大している。

図2-25 調理食品の生産指数の推移



加工米飯はかなり大きく増加

加工米飯の生産量は 32 万 4 千トンで対前年比 12.7 %とかなり大きく増加した。特にレトルト米飯や冷凍米飯の増加が顕著であるが、新規メーカーの参入や商品の多様化が寄与していると見受けられる。

カレーはやや増加、その他はわずかに減少

調理缶・レトルトの生産量は 38 万 4 千トンで対前年比 0.8 %と前年並みとなった。内訳についてみると、カレーの生産量は 16 万 2 千トンで対前年比 3.5 %とやや増加となり、一方、その他の生産量は 22 万 2 千トンで対前年比▲ 1.0 %とわずかに減少した。

図2-26 調理食品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

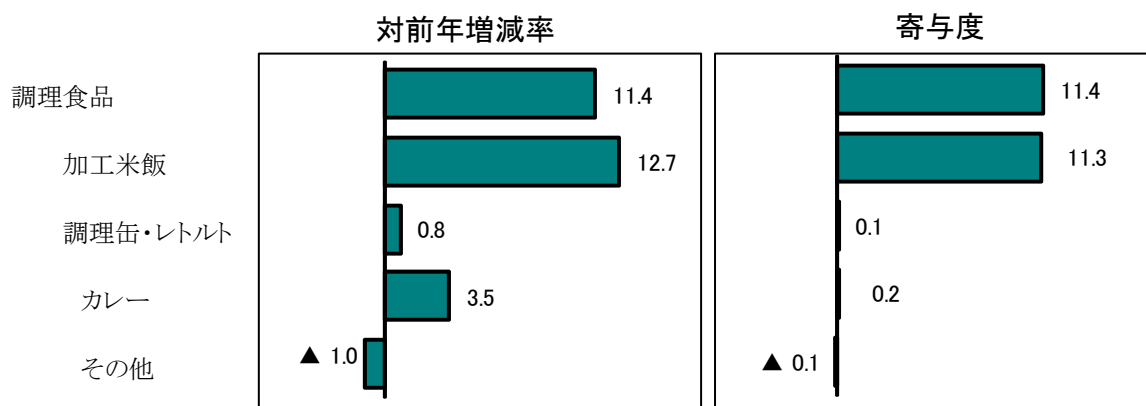


表 2-13 調理食品の品目別生産指数の推移

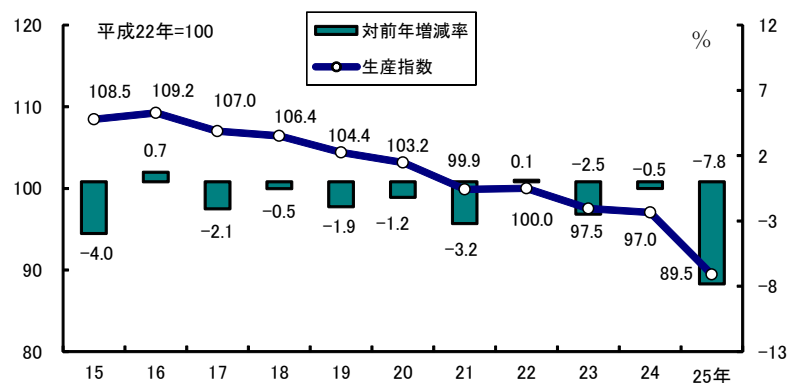
年次 品目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 25/24年
		22年	23年	24年	25年	22年	23年	24年	25年	
調理食品	984.0	100.0	109.0	122.2	136.1	1.3	9.0	12.2	11.4	11.4
加工米飯	848.4	100.0	115.8	126.2	142.2	1.0	15.8	9.0	12.7	11.3
調理缶・レトルト	135.7	100.0	66.1	97.3	98.1	3.1	▲ 33.9	47.0	0.8	0.1
カレー	47.6	100.0	66.8	114.0	118.0	23.5	▲ 33.2	70.7	3.5	0.2
その他	88.1	100.0	65.8	88.2	87.3	▲ 5.4	▲ 34.2	34.1	▲ 1.0	▲ 0.1

1.1 酒類

平成25年の酒類の生産指数（平成22年=100、一部推定値を含む）は89.5で、対前年比▲7.8%とかなりの程度低下した。特に清酒、ビール及び雑酒（発泡酒を含む）の低下が全体を押し下げている。

品目別にみると、スピリッツ類がかなり大きく上昇した。またウイスキー及びリキュール類がやや上昇し、果実酒類がわずかに上昇した。一方、清酒はかなり大きく低下し、合成清酒及び雑酒（発泡酒を含む）がかなりの程度低下し、焼酎、みりん及びビールがやや低下し、ブランデーはわずかに低下している。

図2-27 酒類の生産指数の推移



ビールはやや減少、雑酒はかなりの程度減少

ビールの生産量は243万7千klで、対前年比▲4.9%とやや減少した。ウイスキーなど他のカテゴリーへの消費の移行や、消費者の低価格志向から全体ではノンアルコールのビール風味商品など低価格商品に押され、平成25年も前年を下回った。

雑酒（発泡酒を含む）の生産量も122万3千klで対前年比▲9.1%とかなりの程度減少した。低価格志向から発泡酒についても新ジャンルに押され、消費が縮小している。

焼酎はやや減少、ウイスキーはやや増加

焼酎の生産量は76万9千klで、対前年比▲5.8%とやや減少した。一方、ウイスキーの生産量は7万8千klで、対前年比3.8%とやや増加した。

スピリッツ類はかなり大きく増加、リキュール類はやや増加

スピリッツ類の生産量は31万8千klで対前年比11.9%とかなり大きく増加した。また、リキュール類の生産量は178万7千klで対前年比4.8%とやや増加した。スピリッツ類はウイスキーの代替品としての需要が拡大しているとみられる。

図2-28 酒類の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

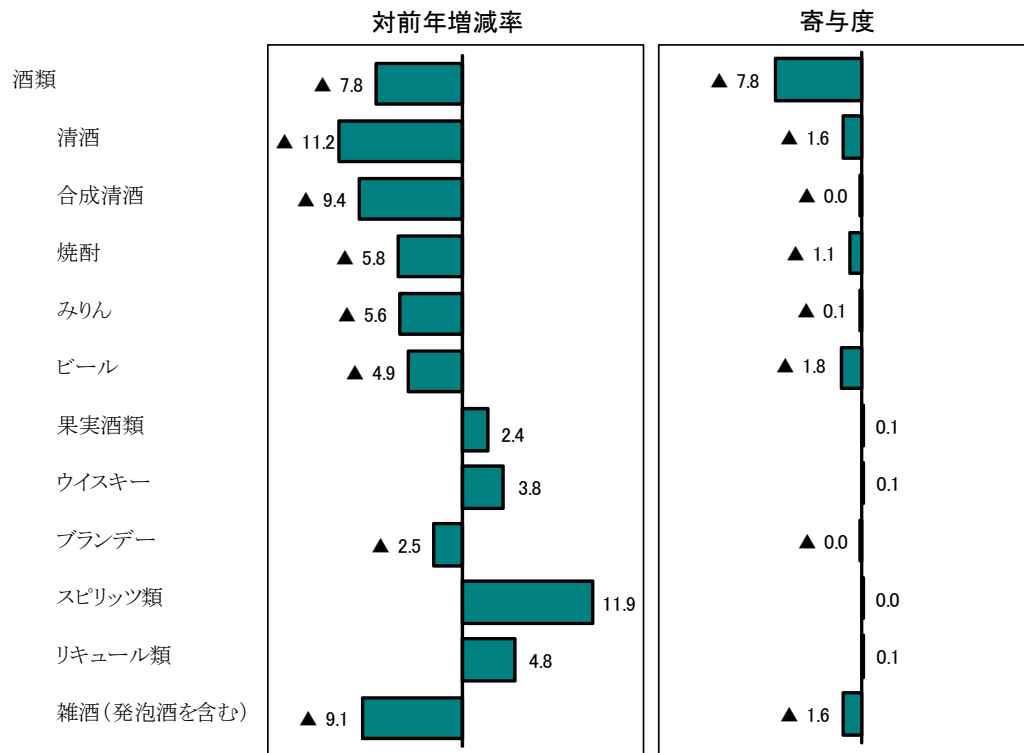


表 2-14 酒類の品目別生産指数の推移

年 次 品 目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 25/24年
		22年	23年	24年	25年	22年	23年	24年	25年	
酒類	2,029.9	100.0	97.5	97.0	89.5	0.1	▲ 2.5	▲ 0.5	▲ 7.8	▲ 7.8
清酒	290.7	100.0	101.1	99.9	88.7	▲ 1.7	1.1	▲ 1.2	▲ 11.2	▲ 1.6
合成清酒	6.0	100.0	93.6	88.0	79.8	2.4	▲ 6.4	▲ 5.9	▲ 9.4	▲ 0.0
焼酎	374.7	100.0	98.3	97.7	92.1	4.3	▲ 1.7	▲ 0.6	▲ 5.8	▲ 1.1
みりん	26.5	100.0	97.0	99.0	93.4	▲ 0.5	▲ 3.0	2.0	▲ 5.6	▲ 0.1
ビール	773.7	100.0	95.9	95.5	90.9	0.8	▲ 4.1	▲ 0.4	▲ 4.9	▲ 1.8
果実酒類	35.9	100.0	109.1	115.3	118.1	1.4	9.1	5.7	2.4	0.1
ウイスキー	61.1	100.0	98.1	100.6	104.4	10.4	▲ 1.9	2.6	3.8	0.1
ブランデー	0.1	100.0	98.3	92.0	89.7	22.4	▲ 1.7	▲ 6.4	▲ 2.5	▲ 0.0
スピリッツ類	6.4	100.0	103.6	108.2	121.1	8.5	3.6	4.4	11.9	0.0
リキュール類	39.1	100.0	103.0	107.1	112.1	1.3	3.0	3.9	4.8	0.1
雑酒(発泡酒を含む)	415.6	100.0	91.6	85.3	77.5	▲ 25.1	▲ 8.4	▲ 6.8	▲ 9.1	▲ 1.6